

牛久：学校周辺に見る自然

第38号 中根小（、ひたち野うしく小）

2011年9月12日発行

＜ ツルレイシ その2. 花のつくりと、そこに集まる虫たち ＞

9 / 1、中根小4年生のツルレイシ観察。今回は、花のつくりと、そこに集まる虫たちの紹介です。



ツルレイシの雌花（左）と雄花（右）。

植物の花は、アサガオやホウセンカなどのように、ガク、^{かべん}花弁、^{おしべ}雄しべ、^{めしべ}雌しべのすべてがそろっているものばかりではありません。ツルレイシの場合、ガクと花弁は必ずありますが、雄しべがなく雌しべだけの花と、逆に雌しべがなく雄しべだけの花があり、それぞれ^{めばな}雌花、^{おばな}雄花と呼んでいます。ツルレイシの実や種子ができるためには、雄花の^{かふん}花粉が雌花の^{ちゆうとう}雌しべ柱頭につかなくてはなりません。その運び屋をしているのが、ハチやハナアブ、チョウの仲間たちです。



雄花でみつを吸うヤマトシジミ（左）。さらに、みつの出ている雄しべのつけ根まで頭をつっこむ（右）。



雌花にみつを吸いにきたヒメハナバチの仲間（左）。体についた花粉が柱頭につく。さらに、みつの出るつけ根へ（右）。



雄花のみつを吸いに来た時に体についた花粉が、雌花のみつを吸いに来た時に雌しべの柱頭について実や種子ができるのです。花は、これらの虫たちに花粉を運んでもらうために、ごほうびとしてのみつを用意しているのですね。虫にとってはみつが欲しいだけで、花粉を運ぶつもりはないのだそうですが。

←雄花でみつを吸うセイヨウミツバチ。

すぐ右隣には 雌花が見える。

(7/22, ひたち野うしく小; 第30号に載せた写真です。)



クロヤマアリも、みつを求めて奥へ奥へ…。

アリは、みつをなめるだけで、花粉を運んでくれないずるいやつ? いえいえ、アリはツルレイシの葉や花弁を食べてしまう虫たちを追いはらってくれる、ありがたい虫なのです。

ただし、花に虫がいたからといって、必ずしも花粉を運んでくれたり、ツルレイシの役に立っているわけではなく、中にはみつを奪^{うばう}うだけとか、花弁を食べてしまう虫たちもいます。たまたまそこで、休んでいるだけということもあります。そして中には、肉食なのに花に来ている虫たちもいますね? そう、クモやカマキリ、狩人バチの仲間です(クモはハナグモの例で32, 34号を、狩人バチは34号を参考にして下さい)。今回も…。花のかげにかくれて、カマキリがえものを待ち構えていました。観察の授業のときによく言うことですが、生きものを見つけたら、「なぜそこにいるのか?そこを何をしているのか?」を、考えながら観察してみましょう。

【理科支援員 宮内】



↑ツルレイシの花弁を食べる
ウリ科作物の害虫、クロウリハムシ。



↑雄花のかげで、えものを待ち構えるカマキリ。